



ラピュタ通信

【発行】
 特定非営利活動法人
 ラピュタ創造研究所
 〒915-0074 福井県
 越前市蓬萊町5-1
 TEL 0778-21-3190

2010年 新年明けましておめでとうございます



皆さま、すがすがしい新年をお迎えのことと思います。昨年中は、ラピュタの活動にご参加・ご支援いただきまして、たいへんありがとうございました。

お陰さまでラピュタ発足から10年を迎えた2009年は、「otonaの文化祭」は7回目、「きものde来武」は17回になりました。常連さんに加え、新たな出会いもあり、あっという間の楽しい一年でした。

今年のラピュタのキーワードは、「パーティー道」です。ラピュタのコンセプトである「持続可能なまちづくり」「武生の暮らし方」の提案の一つとして、「地元の食材」と「地元の人材」のコラボレーションを楽しむ企画が「パーティー道」です。豊かな土地には、おいしい食べ物と、魅力的な人たちが育まれる！ そんな自分たちの足下にある宝物を発掘し、存分に味わう2010年にしたいと思っています。

皆さまの2010年「〇〇〇〇道」がありましたら、ラピュタに是非ご一報を！ よい一年をお過ごしください。

色遊びワークショップ

日時:1月9日(土) 23日(土)
 2月6日(土) 20日(土)

●10:00~11:00
 ●13:00~14:00

料金:1回 1000円

講師:色日和 ofude
 (色彩心理セラピスト)



いろいろな画材を使って、ご自分の「好きな色」「苦手な色」を自由に表現し、その後にセッション交えてその色のもつ心理を読み解きます。ぜひ、あなた自身の心について、色からのメッセージを感じてみてください。

色彩やアートで、心を元気にする

色彩には2つの見方ができます。1つは、「それぞれの色が私たちにどんな影響を与えるのか」という、生理的作用。もう1つは、「人はどんな気持ちのときにどんな色に惹かれるか」という、心理的要因です。こうした色に対する感覚や反応には、多くの人に共通する普遍的なものがあると同時に、個々人の歴史や経験によって培われたパーソナルな感性が存在します。この両方を検証し、探求していくのが、「色彩心理」の世界です。複雑で奥が深いけど、とても面白そうだと思いますか！

各回定員は6名。(先着希望順)
 電子メールにてお申し込みください。
 あて先 ofude@softbank.ne.jp

ペロ亭 やきもの&ペルー民芸キャラバン

日時:1/15(金)~17(日)
 11:00~19:00
 最終日は17:00まで

場所:ラピュタ

主催:ペロ亭

(岩国英子 米谷恵子)

TEL&FAX 0778-28-1204



ペロ亭のお二人、岩国さんと米谷さんには、毎年新年早々にラピュタでキャラバンを開催していただいています。今年も、ラピュタの空間が、独創的な「やきもの」と「ペルーの民芸品」に埋め尽くされます。

- やきもの
花瓶、水盤、掛け花生、湯のみ、飯茶碗、コーヒーカップ、大小の鉢や皿など
- ペルー民芸
クスコの古い織物、ポリビアのレースショール、天然石や銀のアクセサリ、ペルーの焼きものなど

特別企画:

「ワークショップ<<タケフの中の異文化を知ろう>>」

日時:1/16(土) 19:30~21:30

参加費:1800円(飲み物・ブラジル料理込)

※料理の準備があるので必ずご予約ください。

コラム4回 旅の坊主と所侍

まちづくりは、「旅の坊主と所侍(ところさむらい)」の共同作業がいい。

「旅の坊主」は、諸国を巡り歩き、比較評論が得意で、アイデアもいっぱい持っている。しかし、特定の地域に対する責任感がないので言い放しになる。

一方、「所侍」は、一個所にへばりついて暮らしており、井の中の蛙(かわず)になって、世界も時代も読めない。しかし、旅の坊主の説教を聞いて得心(とくしん)すると命を懸けてやりぬく実行力と地域にたいする責任感がある。

まちづくりを標榜するグループの中には、旅の坊主を招いて講演会ばかり開いているところや、逆に時代遅れで独りよがりな考えを無理やり押しつける侍グループもある。よき坊主とよき侍の共同作業がまちづくりには不可欠である。

実は、この坊主と侍の話を私たちにかつて教えてくれたのは、湯布院のまちづくりで有名な中谷健太郎さんであった。太っ腹な武生国際音楽祭は、その音楽祭期間中に音楽家だけでなく、中谷さんや、当時湯河原町会議員をしていたフィンランド出身のツルネンさん、元フランス大使小倉和雄さんなどを次々と武生に呼んでまちづくり論議をコンサートの横で熱っぽくやってきた。そんな理由で中谷さんも武生に来て、坊主と侍の話を私たちにしてくれた。

中谷さんについては今でも覚えている光景がある。講演を終えて帰る日の朝、私が宿舎に挨拶に行くと、疲れた表情の中谷さんが「昨夜は、裁判のための文章を書いて徹夜になってしまった。」と言いながら現れた。それから十年後、NHKの人気番組「プロジェクトX」がバブル経済期に高層マンション建設反対訴訟を起こして乱開発から湯布院を守った中谷さんを大きく取り上げていた。あの時の中谷さんは、武生で旅の坊主をしながら、湯布院では必死に戦う所侍だったのだ。

武生の街中に「蔵の辻」と呼ばれる一画がある。もともとここには大型商業施設をつくる予定であったが、住民は何度も会合を重ね、まちづくり協定を結び、現存する蔵群を補修し、街並みを整えて「蔵の辻」をつくった。

今、ここでいくつかの小さな実験が始まっている。広場での月例市(いち)を喫茶店主が主催し、日曜朝の太極拳は酒屋の主人が世話をやいている。道路向かいの居酒屋のマスターは広場での野外音楽ライブを仕切るのに情熱を燃やしている。「蔵の辻」に所侍誕生か、と楽しみにしている。

ラピュタ創造研究所 井上和治

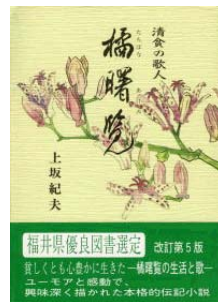
郷土の作家 上坂紀夫先生の書籍紹介

ラピュタにて好評発売中!



首相岡田啓介の生涯

2001年発行 定価 1,800円
福井藩士岡田喜藤太の長男として生まれた岡田啓介は、首相在任中に2・26事件に遭遇。その後、戦争を終結させるべく東条と対決する。福井を愛した軍人宰相の伝記。



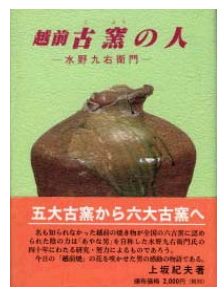
清貧の歌人 橘曙覧

1993年発行 定価 1,500円
貧しくとも心豊かに生きた一橘曙覧の生活と歌ー ユーモアと感動で、興味深く描かれた本格的伝記小説。



雪の降る朝 ~岩崎文江と娘ちひろ~

2006年発行 定価 1,200円
絵本画家「いわさきちひろ」は母岩崎文江の長女として福井県武生市(現・越前市)にて大正7年12月15日の雪の降る朝に生まれた。本書は母文江と「ちひろ」の家族の物語。



越前古窯の人 -水野九右衛門-

1997年発行 定価 2,000円
名も知られなかった越前の焼き物が全国の六古窯に認められた陰の力は「あやな男」を自称した水野九右衛門氏の四十年にわたる研究・努力によるものであった。

上坂紀夫先生のご紹介

作家、越前市在住、「日本海作家」同人。武生で生まれた絵本画家いわさきちひろや歌人橘曙覧など、郷土ゆかりの人物について丹念に調査されたうえで小説等を執筆してこられました。上坂先生には、長年ラピュタの顧問を務めて頂いております。上記4作品以外の書籍も、ラピュタにてお取り扱いしています。お気軽にお問い合わせください。

私たちは、持続可能な地域社会をめざします



※このコラムは、中日新聞・日刊福井の「越前春秋」に掲載されたものです。次号では、第5回を掲載します。



ラピュタ特製 武生歳時記すごろく

※ 右下のコマを切り離して、あそんでください。
ふりだし からスタート。止まった所の指示に従いつつ
あがりを目指そう!!

1/1 総社 初詣風景



ふりだし



おしるこ食べて、1回休み



1/15 総社 左義長祭



2/3 総社 節分祭



投げられたミカンを取り損ねて、
1コマ戻る。

3/1 畷の市:ひなまつり



4/11 蔵の辻で花見



12/18 雪が降り、蔵の辻も雪化粧
寒さのあまり3コマ戻る



総社:正月準備風景



5/3 畷の市:天神様



6/7 蔵の辻
伊勢大神楽

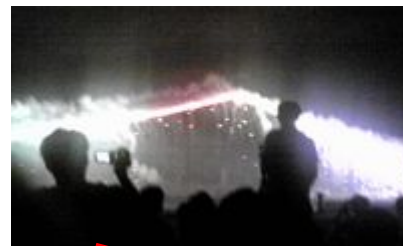


曲の途中で、とっくりが割れ
てしまい2コマ戻る

10/3 ラピュタ otona の文化祭 2009 開催



8/15 花火大会 ナイアガラ



7/1 総社:夏越の大祓
災いが祓えて、2コマ進む



伊勢大神楽
「献燈の曲」

伊勢大神楽
「魁曲」

10/11otona の文化祭
otona の遠足
村国山 de お茶会



登り疲れて、
ふりだしに戻る!



10/10 otona の文化祭
きもの de 来武

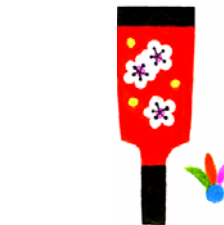
9/15 おとこ みこし



9/13 たけふ姫みこし



8/13 ふるさと踊り
雨に降られて、1回休み。



右のコマを切り離して遊んでね→

